

1. 授業を構想するにあたって

本校外国語科では、実社会とつながる真正性のある「やりとり型タスク活動」を通して、生徒のコミュニケーション力の育成を目指している。

1学期、本校では、ヴェトナムの日本国際学校の生徒を迎え、共に学校生活を送る貴重な機会があった。

英語使用者は世界で約15億人おり、その約75%が非母語話者とされる¹。つまり、英語は非母語話者同士が使うことの多い言語であり、そうした現実的な場面でのやりとりに近い経験が重要だと言える。ヴェトナムの生徒と英語で交流することを通して、生徒たちが「英語は非母語話者同士でもコミュニケーションが取れる素晴らしい手段である」と実感できると考え、「ヴェトナム人生徒が行ってみたいくなるようなふるさと自慢をしよう」というタスクを設定した。

2. 生徒の主体的学習を支える工夫

「ヴェトナム人生徒が行ってみたいくなるようなふるさと自慢をしたい」という動機付けを、学習行動へと自然に結びつけることが学習効果を高めると考え、生徒のエンゲージメントを促すために、以下の工夫を取り入れた。²

①主体性の尊重

ふるさと自慢の内容は指定せず、生徒自身が高いトピックを自由に決定できるようにした。これにより、自ら学習に関する決定を下す経験を促した。また、教師は単元の冒頭で、学習計画と目標を生徒と共有し、ファシリテーターとしての役割を果たした。

②達成感の支援

生徒が「自分にもできる」と感じられるよう、毎回の振り返り用紙を通して、一人ひとりの質問に筆記でフィードバックを行い、個別にサポートした。

③相互交流の促進

毎時間、ペアまたは4人グループでプレゼンを完成したところまで披露し合い、互いにアドバイスをし合う時間を設けた。これにより、生徒同士の学び合いを活性化させた。

3. 生徒の取り組みと成果・課題

学習の開始にあたり、生徒と単元計画および評価基準を共有したことで、生徒は自らの進行状況を意識しながら、自己調整的に準備に取り組む様子が見られた。また、「ふるさと自慢」の内容選定を生徒に委ねたことで、自分の町の中から思い入れのあるものを主体的に選び、意欲的に準備に取り組む姿勢が促された。

今回のプレゼンテーションでは、まず30秒程度の“Short Suggestion”を事前に作成・練習し、それを発表した後、スライドを用いながら即興的に相手に意見を求めたり、話題を深めたり広げたりする形式を取った。事後アンケートには、「結構多めに練習をしていたショートサジェスションはハキハキと言え、それが自信とかそういうことだと思った」との声があり、あらかじめ用意した短い発話が、生徒に安心感や自信を与

え、流暢性を高める効果があったことがうかがえた。

成果としては、ヴェトナム人生徒との交流後の感想に、「他の国の人と、双方の国で使っていない言語で通じ合えることの嬉しさや達成感を感じられる場面がたくさんあって、英語を使うことで交流が深まったのがとても楽しかった」「母国語が違う人と意思疎通して話せることが楽しい」

「自分の母国語ではない英語で世界の人と同じ話題で話すことがうれしい」などの記述があり、第二言語として英語を使った国際交流を純粋に楽しむ姿が見られた。

また、「ほぼ日本語が通じない相手と会話をするので、日本人同士で話すよりも文法や言い方を気にしなければならないと思った」「英語の発音は国ごとに少し異なるので、聞き取るのが大変だった。だからこそ相手に伝わりやすいよう発音や聞き取りに気をつけた」といった声から、英語の正確性や明瞭な発音を意識する姿勢も育ちつつあることがわかる。

さらに、「日本語ではなく英語で自分の町を紹介するのが新鮮で、改めて自分の町の良さに気づけた気がした。また、自分の知っている文法で話せたので、最大限自分の知識を発揮できたと思う」といった感想からは、自分の地域やこれまでに学んできた英語への自信の高まりもうかがえた。

一方で、課題としては、「一度聞き取れなかった単語があり、再度言ってもらっても聞き取れなかったもので、なんとなく話を進めてしまった。もっとリスニング力を鍛えたい」など、相手の英語を聞き取る難しさが挙げられた。また、「自分の考えていた内容をそのまま話すのではなく、相手の反応を見ながら適切に対応したり判断したりする必要があり、対話に合わせて話題を投げかけるのが難しかった」との気づきもあり、即興でのやり取りの難しさに直面したことがうかがえる。今後の授業では、こうした対話力やリスニング力の向上に向けた練習の機会を増やし、次の挑戦の場面に生かしていきたい。



4. 参考・引用文献

1. Ethnologue. What is the most spoken language?
<https://www.ethnologue.com/insights/most-spoken-language/>

2. 鈴木祐一(2024).『ISLA あたらしい第二言語習得論』. 研究社 P138-140

阿野幸一(2025)ほか 120名. New Horizon English Course2 P9-16

文部科学省(2017). 中学校学習指導要領解説 外国語編

国立教育政策研究所教育課程研究センター(2020).『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』. 東洋館出版社